

# 私 + たかはま

たかはまと自分の関係を一人称で語る



## 瓦屋のムスメの見てきた たかはまを伝えます

神谷弘子さん(文化財保護委員)

昔の瓦屋は本当に大変で、苦労した母は女も手に職をと大学に行かせてくれました。このまちで教員生活を全うした今となつては、教え子に、もっと瓦づくりやまちの昔話をしたらよかったなあと思って。今は市の文化財保護に関わったり、地域の文化を語る会に参加したり。意識はしていないけどやっぱり瓦への想いは強いのかな。娘が瓦屋根の家を建てたとき、想いのリレーを感じて嬉しかったわ。私の思い出話でもまちの歴史を語る役に立てばいいなと思っています。

## 赤ちゃんとの暮らしで、まち再発見中

尾崎奈穂美さん(主婦、「声の広報」ボランティア)

高浜市にはお嫁にきました。ほとんど知り合いもない土地で育児がスタートして、楽しいけど、たまには外出したいし、お友だちもほしいなと思って。保健師さんにもらった冊子で初めて知った「いちごプラザ」など子育て施設を積極的に利用して、仲良しもできました。今は、少し自分の時間も作れたらと、広報で見たボランティアにも応募したりして、子育てを介して地域を再発見している感じ。子どもの成長とともに私の関心ももっと広がっていくかなと思います。



自分の住むまちのことを「私のまちでは」「私はこうなつてほしい」と一人称で語ることは、他人事ではなく「自分ごと」としてまちの今とこれからを考えること。  
ずっとこのまちで暮らしてきた方、縁あつてこのまちに来た方、このまちで育つ方、あなたにとつての「たかはま」を教えてください。

たかはまを一人称で語るなら



## 地元LOVE！伝統芸能と まちの安全を守りたい

岩月祐樹さん

(消防士、えんちょ獅子保存会会員)

小学4年生でチャラボコを始め、南中学校に入学してから「えんちょ獅子クラブ」で獅子を演じるように。ふたつの伝統芸能に触れてきて、平成17年の愛知万博公演でそれらを守ることの大切さに目覚め、当時からの仲間と保存会に入りました。みんな仕事で多忙ですが、時間の許すかぎり南中生の指導に行っています。とにかく地元LOVE！今は消防士として、生まれ育ったまちの安全・安心も守りたいと思っています。